

Guide 3-20

Google Scholar の使い方
北大関連の設定を中心に

Google Scholar は、学術情報に特化したGoogleの検索サービスです。日本語文献も英語文献も一緒に検索できるなど、学術文献を使用言語問わず検索でき、また論文本文中のキーワードもヒットするなど、他の文献データベースにはない、Googleらしい溢れるデータベースです。

▶ 「Google Scholar」とは？

学術資料に限定したGoogle。無料で利用可能。収録範囲不明。

【メリット】

- 手軽に検索ができ、また、キーワードが本文にしか出てこない場合でもヒットする（PubMed、Web of Science、CiNii Articlesなどは抄録までを検索）。
- Web of Scienceと同様、ヒットした論文を引用している論文一覧へのリンクがある。

【デメリット】

- シソーラスなどの機能はなく、精密な検索が難しい。
- ノイズが多くなりがち。

▶ 検索Tips

[著者で検索]

- 著者の名前を引用符で囲んで入力します。たとえば、「"a suzuki"」のように入力します。アルファベットの場合、名前の部分をイニシャルにすると、より多くの検索結果を得ることができます。

[タイトルで検索]

- 記事のタイトルを引用符で囲みます。例えば、「"A History of the China Sea"」のように入力します。指定したタイトルの記事と、その記事について言及している他の記事が自動的に検索されます。

その他、Google Scholarでも、様々な演算子や検索オプション画面を利用して複雑な検索をすることもできます。[下記図参照]

☰ をクリックしてメニューを展開

【検索オプション画面】
出版物名の指定や日付の指定などができるが、
不完全または不正確な場合がある。

検索オプション

検索条件
すべてのキーワードを含む
フレーズを含む
いずれかのキーワードを含む
キーワードを含まない

検索対象にする箇所
 記事全体
 記事のタイトル

著者を指定:
出典を指定:
日付を指定:

例: "湯川秀樹", 朝永
例: 物理学会, Nature
例: 1996

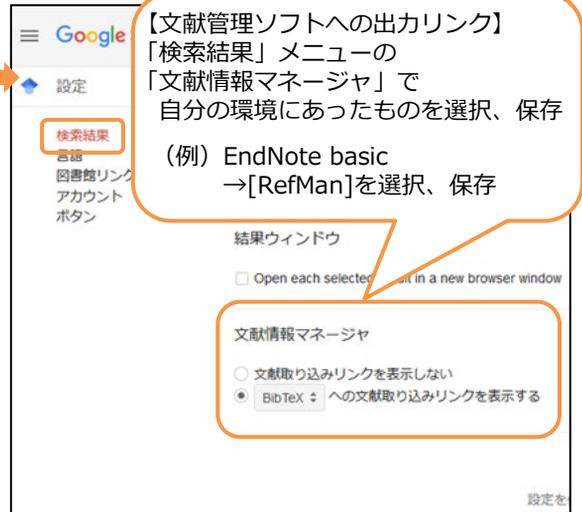


便利な設定

検索結果に、本文へのナビゲーションサービスである「北海道大学附属図書館 フルテキストナビゲーター」へのリンクや、自分が利用している文献管理ソフトへの出カリンクを表示させることができます。



【フルテキストナビゲーターへのリンク設定】
「図書館リンク」メニューの「図書館アクセスリンクを指定」で [Hokkaido university] を検索し、 [Hokkaido University Library - Full-Text @ 北海道大学] を選択、保存



【文献管理ソフトへの出カリンク】
「検索結果」メニューの「文献情報マネージャ」で自分の環境にあったものを選択、保存

(例) EndNote basic
→ [RefMan] を選択、保存

文献情報マネージャ
 文献取り込みリンクを表示しない
 BibTeX : への文献取り込みリンクを表示する



検索結果画面の見方



他の学術記事が言及または引用している記事。関連情報として表示される。そのため、GoogleがWeb上で見つけられず、リンクがないこともある。

北大附属図書館
フルテキストナビゲーターへ

Full-Text @ 北海道大学

タイトルをクリック
すると出版社の論文
ページへ

Problems of acquisitions of library material in a developing country: University of Lagos library experience

☆ 99 引用元 19 関連記事 全 4 バージョン Web of Science: 2 BibTeX に取り込む

- ☆ (保存) : Googleのマイライブラリへ保存。Googleアカウントが必要。マイライブラリはラベルをつけて文献を管理できるGoogleのサービス。
- " (引用) : この論文の文献情報を表示。
- 引用元 : この論文を引用している論文を表示。
- 関連記事 : 関連性が高いとGoogleが判断したものを表示。
- バージョン : 同じ論文が複数サイトで読める場合、他バージョンへのリンクを表示。
- Web of Science : Web of Scienceの、この論文を引用している論文一覧を表示。
- に取り込む : 文献管理ソフト等に保存。